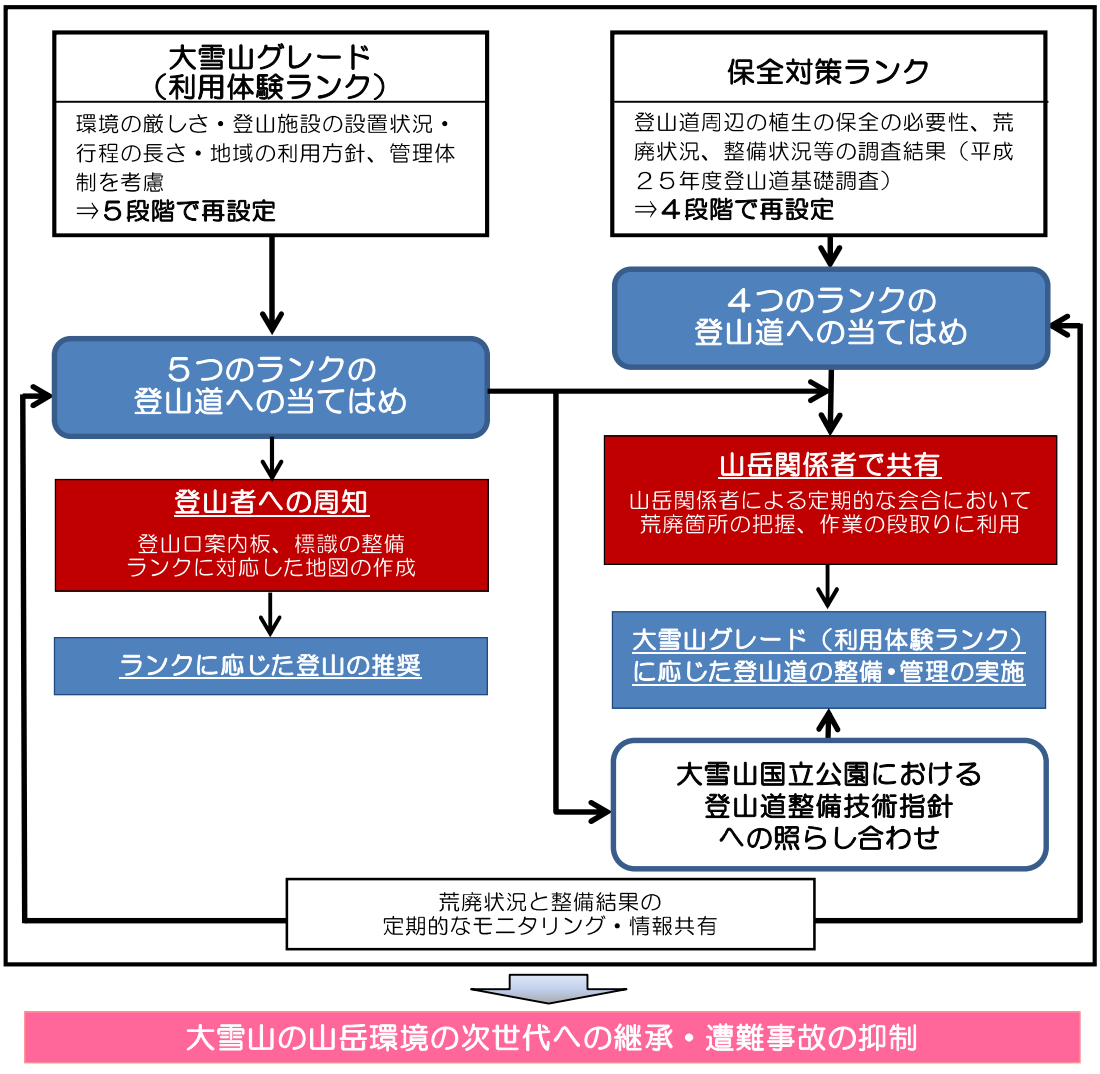
《大雪山国立公園登山道の新たなランク付けの構成と活用》

大雪山国立公園の新たな登山道ランクは、「大雪山グレード（利用体験ランク）」と「保全対策ランク」により構成されます。

大雪山グレード（利用体験ランク）は、登山道の区間毎に異なる自然条件や立地、現状の管理状況や利用状況をもとに、登山者に提供する登山体験の程度や登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安として５段階で設定したものです。

保全対策ランクは、登山道周辺の植生の脆弱性及び登山道の荒廃の程度や整備状況等を勘案し、登山道周辺の自然植生や登山道*及び登山施設*の保全上の課題の程度を４段階で設定したものです。

モニタリングにより把握された登山道・登山施設の状況は、定期的な会合（※）において山岳関係者間で共有し、必要に応じて保全対策ランクの見直しを行います。保全管理の作業は、別途作成する「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」を参考に大雪山グレードに応じた適切な工法等を選定して実施します。登山者に対しては、大雪山グレードを明示した案内版や標識を整備し、ランクに応じた登山利用を促します。（※定期的な会合：大雪山国立公園山岳関係者による情報交換会や各地区における協議会など）